



## 大地申 第7号 「令和元年11月ダイヤ改正等について」に関する申し入れ 【川越車両センター分会・東大宮センター分会】交渉開催！その3

### 【川越車両センター分会】

1. 車両数増加に伴い検査両数も増加するが、標準数の変更及び作業の見直しが行われないため、検査や臨時修繕等対応に影響が出ないように、現場の意見を聞き対応すること。また、相鉄線乗り入れに伴う輸送混乱時の体制及びシステムを強化すること。

◆会社回答：必要のようにについては、確保しているところである。なお、運用担当者の教育については、引き続き実施していく考えである。

組合：相鉄線乗り入れに向けた工事によって、機能保全や特性検査のやり方など知恵を出し体制をつくってきた。

会社：今後の体制について、現場と精査しているところである。情報共有を図っていく。

組合：輸送混乱時は、相鉄線内の車両をリアルタイムで把握できない。入区してからの整理では翌日の運用計画に苦慮することが想定される。

会社：体制を考えるのは支社の役割。状況は把握していく。

組合：人員配置が厳しいことあるが、システムなどの改善も必要。運用支援システムや冬季に発生する八高線のパン点検解消に向けた画像式センサーなど検討をしていただきたい。また、同線区を走行する車両を一カ所で測定し共通で測定しデータを各車セに送信するなど、技術開発も必要だ。

会社：川車セに限らず、長期的な取り組みでもある。意見を把握していく。

2. 平日一休日において、運用順序がズレており仕業検査計画、清掃計画に苦慮することから改善すること。

◆会社回答：お客さまの利便性確保に必要な列車運転計画に伴った車両運用計画である。

組合：列車ダイヤに左右されることは分かるが、車両運用計画で留意すべき検査・清掃等の時期の指定は無視できない。適正化を図ることを求める。

会社：声を聞きながら車両運用を検討していく。

3. 相鉄線乗り入れに伴う連絡フローを、通常時の打合せ窓口は川越車両センター構内とかしわ台車両センター検車区とすること。また、異常時の窓口は本線一入区で区分けし、本線上の事象は東京総合指令室一相鉄運用司令所、入区車両は川越車両センター構内とかしわ台車両センター検車区とすること。なお、フローに下記の内容を反映すること。

①通常の入出区車打合せ（かしわ台に入区した車両の確認及び翌日の出区を確認）

②本線上の車両故障、運用変更等のやり取りは、指令室（司令所）を窓口として電話にて情報共有・協議を行う。

③入出区車の車両故障対応、臨時の仕業検査依頼、出区車両の出し替えについては、かしわ台車両センター検車区とやり取りを行う。

④相模鉄道株式会社との窓口は横浜支社になるが、川越車両センターとの窓口は大宮支社を基本として、異常時等、車両の情報に関する問い合わせが輻輳しないようにすること。

◆会社回答：運行管理に必要な連絡体制を構築していく考えである。

会社：基本的なフローは、示されている内容である。

組合：改正後、新たに相鉄線との打ち合わせを行うが、基本的にはJR線の運用番号・列番・編成と合わせる。相鉄線内に入区したときに、検車区から川越車両センターへ連絡していただき打合せをしたい。

会社：持ち帰り検討する。

4. 相鉄線の12000系は新宿以北へ入線出来る仕様となっており、異常時に池袋や川越などに留置出来ることから、グループ会社を含め対応できる体制を整え開業を迎えること。なお、定期での運用が無い場合輸送混乱時は、12000系は相鉄線へ戻すことを基本とすること。

◆会社回答：異常時については関係箇所と調整を行い、必要な対応等を行って行く考えである。

会社：運用指令と話をし、12000系は基本的に戻す方向である。様々な列車が絡むので一時的にどこかへ入区させることもあるが、可能な限り対応していく。

組合：水平分業を進める中で、運輸サービスが定期作業にないことを理由に準備が出来ていない事は残念。相鉄乗り入れという大きな施策を、グループ全体でつくり上げる体制にない。

会社：引き続き運輸サービスと調整を図っていく。

その4に続く